

平成 24 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「特別賞」

南三陸町被災者生活支援センター

【設立年月日】2011年7月28日

【授賞理由】

震災により混乱した地域における迅速な支援組織の構築は、困難かつ苛酷な活動であることは想像に難くありません。南三陸町被災者生活支援センターが行った介護経験者の確保・派遣および相談場所の設置等の一連の活動は、これからのわが国が目指す認知症の人とその家族への震災対応に対するひとつの方向性を示すものです。

【団体概要】

2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町は、多数の応急仮設住宅生活支援を行うために、地元の社会福祉協議会を委託先に選定して「南三陸町被災者生活支援センター」を設置した。本団体は、このような経緯で急遽依頼を受け設置したことから、身近に参考となるモデルのないなかで理念先行の組織設計を行い、日々の学びを活かしながら柔軟に対応している。具体的な事業展開は、地域福祉の専門職（コミュニティソーシャルワーカー）であり認知症ケア専門士である職員を配置し、南三陸町直営地域包括支援センターとの密接な連携の下に実践している。

【事業活動】

東日本大震災で被災した町民を支援するために以下の事業を行っている。特に認知症高齢者およびその家族支援は、被災者支援のなかで包括的に行っている。

- ・要援護者支援等に関すること
- ・生活相談支援に関すること
- ・仮設住宅団地内活動（コミュニティ）支援に関すること
- ・生活環境支援に関すること

【事業成果】

1) 気づきを活かした見守り支援

巡回型支援員・滞在型支援員 230 名は、震災後落ち着かなくなり徘徊を繰り返す方への支援として仮設住宅団地内における早期発見に努め、大事に至らない未然防止を可能にしている。

2) 役割のある場（出番）づくり

お茶会に設けた役割のある場は、当事者に対する親しみや認識を新たに作る場となり、地域をあげて支える機運の醸成が図られた。

3) 認知症ケア専門士による普及啓発

仮設住宅団地集会所をこまめに訪問し、日常のだれにでも思い当たる内容を題材にした模擬会話をういた、認知症の理解を図るミニ講話で理解を深めている。

4) 認知症高齢者緊急時対応

認知症ミニ講話は、交番の警察官や県外からの支援警察官を交えて行い、地道な緊急時対応ネットワーク構築に努め、実践的で機動力のある地域連携が図られている。